

【担当教員名】 石田寛友	対象学年	2	対象学科	理学・作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

<概要>

整形外科学Ⅰで学習、習得した知識を基に脊椎および運動器官としての四肢を部位別に区分けして代表的な疾患及び治療法について述べる。さらに各種外傷によって生ずる骨・関節・軟部組織、神経組織損傷の初期治療、二次的障害について述べ、それぞれの処置法の基本をわかりやすく講義する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

理学・作業療法士として将来取り扱う重要な疾患の知識を整理し、応用できるように学習する。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO	
			番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	骨関節・肘関節	機能解剖、先天性・後天性異常		講義
2	手関節および手指(1)	機能解剖、診療法、先天異常		講義
3	手指	(2)特に機能再建(外傷、先天異常、神経損傷)		講義
4	頸椎	機能解剖、先天異常、斜頸、むち打ち症、変形症		講義
5	胸郭・胸椎	機能解剖、形成異常、胸郭出口症候群など		講義
6	腰椎	機能解剖、形成異常、変形疾患など		講義
7	股関節	発生と機能解剖、先天性疾患、後天性疾患など		講義
8	膝関節	機能解剖、加齢的变化、腫瘍など		講義
9	足関節と足趾	機能解剖、先天性変形、後天性変形と治療		講義
10	軟部組織損傷	治療法とその時期、結果		講義
11	骨折・脱臼・スリ・障害	原因・症状・治療法・後療法		講義
12	脊椎・脊髓損傷	原因・症状・予測すべき最終結果		講義
13	末梢神経損傷	抹消神経の構造、臨床診断法、治療と成績		講義
		11～13は1～10の各項と関連して繰り返し講義される予定		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	標準 整形外科学 第7版	寺山修一・辻陽雄	医学書院	9000円
参考書	標準理学・作業療法学 整形外科学	奈良勲	医学書院	
その他の資料				

【評価方法】 定期試験	【履修上の留意点】 整形外科学Ⅰ・Ⅱの成績を総合的に評価する。
----------------	------------------------------------